

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園 名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和6 年 12 月 16 日

1. 活動テーマ

《テーマ》

自然にふれる事を楽しみ、みつけてみよう

《テーマ設定理由》

子どもたちがどんな自然物に興味があるかを知る為、好きな自然物を見つけてもらうことにした

2. 活動内容

・絵本の読み聞かせを行い、様々な自然物がある事を伝える。・自分の興味がある自然物を見つける

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

・お散歩バック(中身が見えるように、透明のジップロックを用意する。手が自由に使えるように、紐をつけ肩掛けにする。

4. 探究活動の実践(子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり)

・探索前に外で読み聞かせを行う。普段、室内で読み聞かせが定着している事もあり、「ほん？」と驚いた様子の子どものもいた。袋をそれぞれに渡すと「いっぱい葉っぱを入れる」「いっぱい入れる」などの声が聞かれた。

・保育者「何の実だろう？」

子ども「ブルーベリー」

ブルーベリーを探し始めると、どんぐりを見つける。それをきっかけに、自然にみんなでどんぐり探しが始まる。保育者が葉っぱの下にどんぐりがあることを伝えると、葉っぱをかき分け探し始める子どももいた。見つけた子どもは、「みんなー、こっちにあるよー」と教える姿が見られた。

保育者「どんぐりは大きくなるかな？」

子ども「ならない」

・後半になると

子ども「どんぐりの穴から虫が出てくる」「どんぐりジュースを作る」
落ち葉、花びらを集めた子ども

「葉っぱのお家作る」

「花びらのお家を作っていた」などそれぞれ知っている事、やりたいことを言い始める。

最後に袋に入れたものをそれぞれ見せてもらう。興味があまり見られなかった子どもも袋いっぱい落ち葉、どんぐりなど袋に入れていた



5. 振り返り

・自分専用の袋がある事で、はりきって探そうとする様子がみられたが、いざスタートとすると何を探して良いかわからない子どももみられたり、とりあえず何でもよいから袋いっぱいに入れようとする子どももいた。保育者が声がけしていくことで、少しずつ自分で探そうとする姿も見られたり、子ども同士で「ここにあるよー」などのやり取りも見られるようになってきた。時間後半になると、拾った物で「どんぐりジュースを作りたい」や、楽しかったとの言葉も聞かれ終えている。保育者からの子どもに対しての言葉がけが少々多く見られた事もあり、次回は子どもの発見や気づき、子ども同士のやり取りが見られるような環境設定をしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和7年1月14日

1. 活動テーマ

《テーマ》

・自然に興味を示し、自ら発見することを喜ぶ。

《テーマ設定理由》

・毎日の散歩の中で自然にふれて遊ぶことを楽しんでいるが、どこか受容的であった。子どもが自分で興味のあることを見つけ、その発見を喜んで友だちと保育者と共有できると良いと感じたため。

2. 活動内容

・導入として絵本を見る。(はやしでひろったよ)
・袋を渡し、自由に散策をする。今回はチームを分けず個人での行動にする。
・20分ほど自由に散策し、拾ったものを袋に入れる。
・集まって一人ひとり何を見つけたか、拾ったもので何をして遊ぶかを発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

・袋・絵本

4. 探究活動の実践(子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり)

・今回はチームを分けず自由に散策を始める。

子A:「(ミミズを見つけ)動いてるね」

保:「そうだね、元気だね」

子A:「みんなー!ミミズさんがいるよー!」

子B:「あつまってー!」

興味を示し、集まってくる子どもたち

子C.D:(ミミズを見て)持ち上げる棒を探しに行く。

子C.D:棒を使ってミミズを持ち上げようとする。

子C:「ぼくがミミズのお母さんだから!」と言って取り合いをする。

その後しばらく観察を続け、他児も気になって見に来る。

子E:「ミミズ、動いてるけど元気ないね」

保:「ミミズさんかわいそうだから、戻してあげようか」

子B:棒を拾ってきて「私が安全なところに避難させてあげるね!」

～各自また探索を楽しむ～

集まって各自拾ってきたものを発表する時間を設ける。

・どんぐりだけを集めた子は「どんぐりできのこを作ります!」と大きな声で発表する。

・自分が集めたいものが見つからず、慌てて直前で近くに落ちていた葉っぱを拾う。

・探したが「おせんべいなかった」(普段木の皮をおせんべいに見立てて遊んでいた。)

・注目されて恥ずかしがる子もいた。

5. 振り返り

・普段何気なく遊びの中で保育者が発見したものを伝えたり、あっちに何があるかな?と促すことが多かったので、子ども主体を心掛けた。最初はどのようにいいか分からず保育者の近くで様子を伺う姿が見られたが、友だちが何をしているかを見て一緒に探索を楽しんだり、発見したものを共有しようとする姿が見られた。1人での探索を楽しむ子、お気に入りのものが見つけれない子、積極的に見つけたものを保育者に見せに来る子など様々な姿が見られた。子どもの気付きを大切にしながら、困っている子には保育者が少し手を貸してあげることで広がる世界があるのではないかと感じた。

